

『袖ヶ浦市史研究 第23号』原稿執筆要項

(原稿の種類)

- 1 原稿の種類は、概ね下記のとおりとするが、随時内容に応じて設定する。
(1) 研究論文 (2) 調査報告 (3) 研究ノート (4) 資料紹介
(5) 動向 (6) 随想 (7) 書評及び刊行案内

(原稿)

- 2 原稿量は、原則として写真・図版等を含めて、20頁以内とする。
- 3 原稿はWord等デジタルソフトでの作成を原則とし、
縦書きの場合は、A4縦、文字組み33字×28行、2段組みとする。
横書きの場合は、A4縦、文字組み47字×37行、1段組みとする。
- 4 文字は、本文…明朝10ポイント タイトル…ゴシック24ポイント、サブタイトル…ゴシック14ポイント、著者名…明朝14ポイント、見出し…ゴシック10.5ポイントを基本とする。
- 5 文体は、「である」体とする。
- 6 用語は、古典の引用、固有名詞、史料的なもの以外は、できるだけ現代仮名遣いとし、当用漢字を用いることとする。
- 7 句読点、括弧、各種記号などは1字分とする。
- 8 文中の外国固有名詞はカタカナ書きとし、括弧して欧文を記す。但し、一般的なものはこの限りではない。
- 9 年号、月日などは、和暦は後に括弧で西暦を付記することとし、横書きの場合は原則としてアラビア数字で表し、1桁は全角数字、2桁以上は半角数字とする。縦書きの場合は、漢数字を使用し、西暦について二桁以上は十、百等の単位を使用しない。(×：千四百五十、○：一四五〇)
- 10 度量衡単位はcm、kg、km²等のように記号の使用を原則とする。
- 11 入稿は、CD-R、USBメモリ等の記憶媒体に使用ソフトとバージョンを明記し、紙に出力したものを添付し、提出する。電子メールでの提出の場合においても、紙に出力したものを別途提出する。挿図・写真・表等がある場合は、レイアウトがわかる完成見本を紙に出力し添付する。

(図版等)

- 12 版面の大きさは、縦245mm×横165mm(キャプション分含む)とする。
- 13 図・表ごとに通し番号、図表名及び説明・註記・出典等を記すこと。
- 14 挿図は、紙媒体の場合、トレース済の清書したものを使用し、台紙に貼り付けた上、トレーシングペーパー等で保護し、その上に天地、縮尺、使用範囲等

を青色で明記する。写植等がある場合には、赤色で明記する。電子媒体の場合は、原則として illustrator で作成したものとする。紙媒体・電子媒体のいずれもレイアウトやキャプションがわかる完成見本を紙に出力し添付する。

15 写真は、紙媒体の場合、手札判以上の大きさにプリントしてトレーシングペーパー等で保護し、その上に天地、縮尺、使用範囲等を青色で明記する。写植等がある場合には、赤色で明記する。電子媒体の場合は、原寸以上、jpg または tiff で保存したものとする。紙媒体・電子媒体のいずれもレイアウトやキャプションがわかる完成見本を紙に出力し添付する。

16 実測図中に写真を合わせて1点の図版とする場合、写真単独のデータとは別に、編集して図版として完成させた原稿を入稿する。

(註)

17 引用の典拠を表示する場合や本文中の叙述をさらに補強・保管・補足する場合に註をつける。

18 註は、本文の末尾にまとめて記載することとし、本文の該当箇所には括弧で番号を記入するものとする。 例：[註1]

(引用・参考文献)

19 本文または脚註において引用文献を表示する場合は、著者名・刊行年の順で記載する。 例：(袖ヶ浦市 2017)

20 引用・参考文献は巻末にまとめ、表示は註と同様とする。

21 引用・参考文献は、五十音順に並べることとする。

22 引用の典拠・参考文献の表示は、下記のとおり著者、刊行年月日、論文名、書名、刊行元を明示する。

例：袖ヶ浦太郎 2017 「……………」 『袖ヶ浦市史研究第18号』 袖ヶ浦市郷土博物館。

・和漢単行本：著者名、刊行年、『書名』、出版社名

・和書雑誌：執筆者名、刊行年、「論文名」、『雑誌名』、巻号数、刊行元、

・洋書単行本：著者名(編者・訳者名)、刊行年、『書名』、出版社名

・洋書雑誌：執筆者名、刊行年、「論文名」、『雑誌名』、巻号数、刊行元

(校正)

23 校正は、原則として執筆者は2校までとするが、結果によりその限りではない。

(その他)

24 原稿・使用図版等は原則として返却しないが、返却を希望する時はあらかじめ連絡することとする。

25 原稿の採否、編集等に関しては、郷土博物館が行う。